

2 学年だより

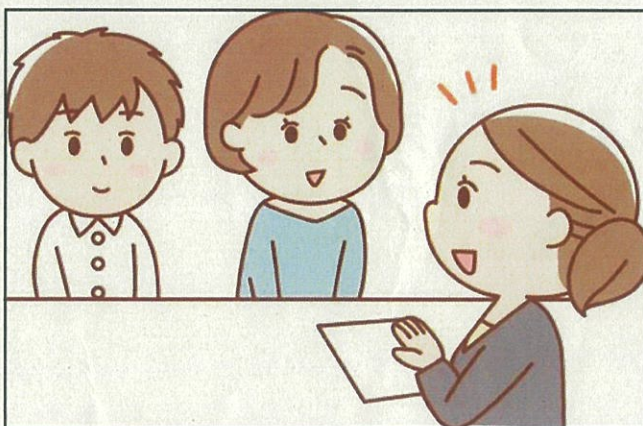
夢の宅配便

2 年学年主任

水野 喜代治

「三者面談がはじまりました。」

今日から三者面談がはじまりました。今回は進路希望調査で確認した高等学校について面談を進めていきたいと思います。とは言っても進路相談で扱う資料がまだ何も揃っていないので、市販されている「首都圏高校受験案内2022年度（晶文社発行）」という本を参考にします。面談で扱う高等学校の合格ラインはこの本のデーターを引用します。また、私立高校の内申の基準も、この本の基準値を参考にします。内申については、5教科は2年の評定、技能4教科は1年生の評定を仮の内申としてアドバイスします。この面談を通して、希望している高校に入学するための具体的な目標を設定できたら良いと思います。希望の高等学校を目指して、夏休み努力していきましょう。



「来年度の公立高校の選抜の方法が一部変更されます。」

面談の時に冊子「令和5年度に実施する入学選抜から 公立高等学校の入学者選抜制度の一部が変わります」をお配りします。来年度の公立高校の選抜方法が少し変わります。変更される選抜方法で押さえておかなければならないところが二つあります。一つは、学力検査と一緒に行われていた面接を実施しなくても良いとなった点です。これによって、多くの学校が面接を実施しなくなると考えられます。従来、面接は、多くの公立高校で入学者選抜制度の約20%近くの比重で重視されていました。この面接が実施されなくなるということは、その分、学科試験の重みが大きくなることが予測されます。もう一つの変更は、従来、定員の10%は、学力検査と面接のみを資料として合否を決定していました。つまり、内申点（学校の評定）は参考にしないで定員の10%は選抜する制度です。内申点が合格基準に達していなくても、面接と学力検査ができれば合格できました。ここの10%の選抜方法が変更されます。面接が実施されませんので、内申の9教科の「主体的に学習に取り組む態度」の観点が数値化されて学力検査と合計して合否を決めることになります。各教科の「主体的に学習に取り組む態度」の評価を意識して努力していくことが大切です。2年生の成績から進路資料となります。今回の面談で「主体的に学習に取り組む態度」の観点を特に注意して頑張ってください。

細かな変更の内容は、面談の時に配付される冊子に書いてありますのでご覧になってください。

*進路に関する夢の宅配便は、重要な情報が書かれていますので黄色の紙で印刷します。